

- A：おいおい！なんだこれは？
「アツモノに懲りてナマスを吹く」とか「煮え湯を飲まされる」とかは聞いたことがあるが、二つをゴチャマゼにして！
一体何を言いたいんだ？
- B：そうだろう！第一煮え湯を飲んだら火傷をするし、本人は“覚悟の火傷”かもしれないが、介護させられる家族は堪らないよ。
しかしこんな馬鹿げたことが現実にあるんだ。
- A：現実にあると言うが何なんだ？
- B：ダムのことだよ。
- A：ダム？ダムなら洪水を防いだり、水資源を確保して我々の生活に役立っているんじゃないの？
- B：その通り！しかし「過ぎたるは及ばざるが如し」（論語）と昔の中国の“エライ人”が言っているように、何事にも限度があるよ。何時の間にかダム作りそのものが目的化して、日本中が“水余り”で、例えば淀川水系では水道用水と工業用水だけで800万人分も“水余り”なんだ。
- A：へー！しかしダムが何で「アツモノに懲りず、煮え湯を飲む」ことになるのか分からないじゃないか。
- B：ダム作りにかかる費用は全部税金で賄っていないのさ。全部税金でも、負担させられるのは国民だから、ムダなダム作りは許せないけれど、費用の一部は水道代で負担させられる仕組みになっているんだ。新聞やNHKテレビで報道されたから知っていると思うが、長岡京市では平成12年からダム起源の不味い水を京都府から押し付けられ、お陰で水道代は3割も値上げされそれでも価格の高い府営水道の水代が回収しきれず、長岡京市は大赤字に転落してしまったんだ。
- A：それは知っているよ。だけどそれがなんで「アツモノに懲りず、煮え湯を飲む」ことになるんだ？
- B：相変わらずイラチだなあ！話は最後まで聞いてから質問してくれよ。長岡京市に限らず乙訓地区の人達は今まで美味しい地下水を水源とする水道水を飲んできたんだ。一方京都府は「協定」を楯にしてダム起源の水を押し売りする。ところが（宇治ではまだ水が足りないという理由で）国に向かってもっとダムの水が欲しいと申し込んでいるんだ。まさにこれは「アツモノに懲りず煮え湯を飲む」と言えるじゃないのか。
- A：分かった。宇治で水が足らなければ、余っている乙訓の水を回せばよい。しかしこれから下水道がどんどん普及して行くと水需要は増えるんじゃないの？
- B：そのとうりだよ。だけど過去の「需給計画」を立てたのが“ゆけ！ゆけ！どんどん”の時代でバブルがはじけて「計画」と現在の「実需」と大幅に狂ってしまったんだから、この際現状を冷静に直視し、冷静に将来を予測した上で、市町の意見をよく聞くだけでなく府民にも情報を公開しなければならぬと思うんだ。ようやく国も脱ダムに舵を切ろうとしているし・・・。
- A：だけど「京都府営水道事業経営懇談会」が京都府に提言していると聞いたよ。
- B：よく知っているじゃないか。ところがその懇談会の提言がマユツバなんだ。その上懇談会は血も涙もなく、困っている乙訓地区の住民や市町に対して（地下水を止めて）“協定どうり”に府営水道を飲んでもらう「将来計画」を提言しているんだ。だからもっとダムの水が欲しいという「将来計画」を京都府知事にアドバイスすることになる。
- A：分かった。これは正に「アツモノに懲りず煮え湯を飲む」ことになる。京都府だけが勝手に火傷するどころか、被害は全府民に及ぶことになる。皆で京都府の今後の水需要を勉強して、将来の水需要に必要な水は確保し、宇治が足らなければ乙訓や木津から融通すればこれ以上ダムの水は要らないかもしれない。
急いで京都府に意見を寄せてみよう。

別稿「アツモノに懲りず煮え湯を飲む」で京都府の水需給を取り上げたが、結論として京都府が参画している丹生ダム（ $0.2\text{M}^3/\text{S}$ ）大戸川ダム（ $0.1\text{M}^3/\text{S}$ ）からの撤退が可能と考えます。根拠を次に述べます。

1) 京都府の現状

京都府企業局（以下府営水道と略称する）は、京都府南部の10市町に水を供給していて、浄水場は宇治、木津、乙訓と3ヶ所、確保済みの水利権と計画給水量は資料（1）の通りです。ただし水利権の内訳は宇治＝①天ヶ瀬ダム $0.3\text{M}^3/\text{S}$ ②天ヶ瀬ダム再開発 $0.6\text{M}^3/\text{S}$ ③丹生ダム $0.2\text{M}^3/\text{S}$ ④大戸川ダム $0.1\text{M}^3/\text{S}$ 合計 $1.2\text{M}^3/\text{S}$ 、木津＝①比奈知ダム $0.6\text{M}^3/\text{S}$ ②日吉ダム $0.3\text{M}^3/\text{S}$ 合計 $0.9\text{M}^3/\text{S}$ 、乙訓＝日吉 $0.86\text{M}^3/\text{S}$ です。なお宇治の②～④はいずれも未完成なので暫定水利権です。

府営水道の特徴は工業用水を持たず、乙訓地区で上水を市町経由で（工業用水として）企業に使ってもらうことを“計画・実施”していることです。価格の高い上水を押し付けられるのですから、企業にとってはかなりの負担を強いることになり、逆に見れば需要量の伸びを押さえることになるとみられます。

2) 京都府水道事業経営懇談会の第5次提言

H13/6懇談会は第5次提言を京都府知事に提出しました。提言の「人口と水需要の見通し」を見ると（イ）バブルがはじけてからビッグプロジェクトの計画が破綻している例が多いのに、将来人口について再検討せずに“関西文化学術研究都市等の将来計画人口を別途加算”したり、（ロ）乙訓系については、「ゆけ！ゆけ！どンドン時代」に京都府～各市町間で取り決めた“協定水量を基に予測”したり、その予測手法には疑問があります。この疑わしい「見通し」を資料2として添付します。

ここで

A) 計画給水量（資料1参照）は・・・・・・・・・・ $236,800\text{M}^3/\text{E}$

B) H32府営水供給量（資料2）は・・・・・・・・・・ $204,500\text{M}^3/\text{日}$

C) $A - B$ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ $32,300\text{M}^3/\text{日}$

となります。

3) 結論

①第5次提言はH32の人口を697千人としているが、日本全体はH21～22がピークと予測されていることを勘案すると、H33以降は減少に向い、それに伴い水需要も減少すると考えられる。

②丹生ダム、大戸川ダムの水利権に対応する給水能力は $24,000\text{M}^3/\text{日}$ なので、これを放棄しても $8,300\text{M}^3/\text{日}$ 余裕があります。一見ぎりぎりすぎるのではないかと危惧されるかもしれませんが、前述の通り懇談会の「見通し」が過大と考えられること。

上記の通り府営水道は丹生ダム、大戸川ダムの水利権は放棄しても支障がない。しかし天ヶ瀬ダム再開発の水利権 $0.6\text{M}^3/\text{日}$ は不可欠です。

（補論）乙訓浄水場は、地下水位の低下や地盤沈下に対処するため、H12/10月から給水開始しました。H13年度は3市町合計「基本水量」の50%の $23\text{千M}^3/\text{日}$ が「協定水量」で、実績は $21\text{千M}^3/\text{日}$ 。その結果「地下水の安全揚水量」はほぼクリアしました。（大山崎町のみ約 $1\text{千M}^3/\text{日}$ オーバー。しかしこの大山崎町も「協定」と実績との差が $1\text{千M}^3/\text{日}$ だったので、「協定」通り受水すれば、それだけ地下水の汲み上げが減るので）絶対需要量が増えない限り「H13年レベルの協定水量」以上の府営水を乙訓3市町に“押し売り”すべきではない。

2 事業の概要

『公営企業の概要』
H12/0 京都市企業局

(1) 経過及び現況

区分		京 都 府 水 道 用 水 供 給 事 業								
事業名		京 都 府 営 水 道								
名	称	京 都 府 営 水 道			京 都 府 営 水 道			京 都 府 営 水 道		
浄水場の名称	宇治浄水場	木津浄水場	乙訓浄水場							
浄水場所在地	宇治市宇治下居	相楽郡木津町字吐師	京都市西京区御陵							
創設事業認可年月日	昭和36年12月28日	昭和46年3月31日	昭和62年3月31日							
最大取水量(計画)	1.2m ³ /秒	0.6m ³ /秒(計画0.9m ³ /秒)	0.575m ³ /秒(計画0.86m ³ /秒)							
水源の種別	ダム湖水(天ヶ瀬ダム)	表流水(木津川)	表流水(保津川)							
1日最大給水量(計画)	96,000m ³ /日	48,000m ³ /日(計画72,000m ³ /日)	46,000m ³ /日(計画68,800m ³ /日)							
建設年度	昭和36~52年度	昭和46~平成8年度	平成4年度~							
給水対象団体及び給水開始年月日	城陽市(昭和39年12月) 宇治市(昭和40年6月) 久御山町(昭和43年4月) 八幡市(昭和43年7月)	京田辺市(昭和53年7月) 木津町(昭和52年10月) 精華町(昭和63年7月)	向日市(平成12年10月) 長岡京市(平成12年10月) 大山崎町(平成12年10月)							
供給料金 (m ³ 当たり)	期 間	基本	従量	超過	基本	従量	超過	基本	従量	超過
	昭39.12.28~ 昭50.12.31	-	14円14銭	-	-	-	-	-	-	-
	昭51.1.1~ 昭52.9.30	-	21円21銭	-	-	-	-	-	-	-
	昭52.10.1~ 昭54.3.31	-	32円	-	52円	22円	200円	-	-	-
	昭54.4.1~ 昭59.3.31	-	43円	-	72円	22円	200円	-	-	-
	昭59.4.1~ 平4.9.30	-	49円	-	76円	31円	232円	-	-	-
	平4.10.1~ 平5.3.31	32円	11円	96円	76円	31円	232円	-	-	-
	平5.4.1~ 平9.3.31	35円	11円	96円	77円	31円	256円	-	-	-
	平9.4.1~ 平11.3.31	37円	17円	135円	79円	32円	356円	-	-	-
	平11.4.1~ 平12.9.30	43円	19円	135円	86円	39円	356円	-	-	-
平12.10.1~ 平14.3.31	43円	19円	135円	86円	39円	356円	89円	42円	402円	
平14.4.1~	43円	19円	135円	86円	39円	356円	100円	42円	402円	

(2) 整備計画の概要

区分	事業名 京 都 府 水 道 用 水 供 給 事 業			
条例上の名称	京 都 府 営 水 道			
事業認可年月日	昭和62年3月31日		変更認可平成3年3月30日 変更認可平成3年8月1日	
建設年度	昭和62年度～			
事業費	約915億円			
浄水場の名称	宇治浄水場	木津浄水場	乙訓浄水場	合 計
計画取水量	1.2m ³ /秒	0.9m ³ /秒	0.86m ³ /秒	2.96m ³ /秒
水源の種別	ダム湖水(天ヶ瀬ダム)	表流水(木津川)	表流水(保津川)	—
計画給水量	96,000m ³ /日	72,000m ³ /日	68,800m ³ /日	236,800m ³ /日
計画給水人口	547,000人		158,000人	705,000人
給水対象団体	宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・ 京田辺市・大山崎町・久御山町・木津町・精華町			10市町
事業の内容	宇治浄水場と木津浄水場との接続(完了) 宇治浄水場の高度浄水処理施設整備(完了) 木津浄水場の拡張整備(第1次拡張、概成) 乙訓浄水場の創設(完了) 乙訓浄水場と宇治・木津浄水場との接続			

1 人口と水需要の見通し

H13/6

京都府水道事業経営戦略「水と次世代」資料

区 分		年 度			
		1 3	1 8	2 2	3 2
宇 治 系	給 水 人 口 (人)	364,100	375,300	381,700	377,200
	一日最大給水量 (m ³ /日)	160,000	166,800	172,200	175,000
	府営水受水量	95,300	99,300	104,700	107,600
木 津 系	給 水 人 口 (人)	123,000	142,500	157,100	177,400
	一日最大給水量 (m ³ /日)	56,100	65,900	73,000	83,700
	府営水受水量	24,600	33,100	40,200	50,900
宇治・木津系 小 計	給 水 人 口 (人)	487,100	517,800	538,800	554,600
	一日最大給水量 (m ³ /日)	216,100	232,700	245,200	258,700
	府営水受水量	119,900	132,400	144,900	158,500
乙 訓 系	給 水 人 口 (人)	147,300	148,100	147,900	142,400
	一日最大給水量 (m ³ /日)	82,900	89,200	89,800	89,900
	府営水受水量	23,000	46,000	46,000	46,000
府 営 水 道 合 計	給 水 人 口 (人)	634,400	665,900	686,700	697,000
	一日最大給水量 (m ³ /日)	299,000	321,900	335,000	348,600
	府営水受水量	142,900	178,400	190,900	204,500
施 設 能 力 (m ³ /日)		190,000		(施 設 拡 張)	

- (注) 1 給水人口は、各受水市町ごとにコーホート要因法により推計した将来人口（関西文化学術研究都市等の将来計画人口を別途加算）を基に水道普及率を加味して推計した。
- 2 一日最大給水量は、各用途ごとに算出した水量等の合計を負荷率（一日平均給水量／一日最大給水量）で除して推計した。
- 3 府営水受水量は、一日最大給水量から各受水市町の自己水の計画水量を差し引いた水量である。
- なお、乙訓系については、各市町の受水計画に基づく協定水量を基に予測した。